

学生にすすめる本と読書法

● 本 館 2F 新着書架 361..45

対話型ファシリテーションの手ほどき

中田 豊一 著
認定NPO法人 ムラのミライ



生命環境学部 環境科学科
(国際流域環境研究センター)

イシダイラ ヒロシ
石平 博 教授

この本は、大学院の授業「国際協力論」の講師の先生から紹介された参考書をネット上で探していた中で偶然見つけたものです。タイトルにある「対話型ファシリテーション」とはどのようなものなのかに興味を持ち、本を購入して読んでみました。わずか120ページ足らずの分量の本ですが、非常に中身が濃く、読み物としても大変面白いものでした。

この本で紹介されている対話型ファシリテーションの基本は、簡単な事実確認の質問を使った対話術です。相手に質問をする場合、英語の5W1Hを聞いていくのが一般的なやり方ですが、「なぜ(Why)」や「どう(How)」のような問いかけを、具体的な事項を確認する質問に置き換えるという非常にシンプルな技術がこの手法の中心となっています。物事に対する疑問(なぜ)や現象の背景に

ある構造への興味(どのように)は、研究の出発点や原動力ですが、これらの問いを使わないコミュニケーション手法があることに最初は少し驚きを感じました。しかし、本を読み進めていくうちに、国際協力の現場での経験を通じて著者が培ってきた対話の技法が方法論として体系化されており、その有効性が様々な現場で実証されていることを理解することができました。

この対話術は、仕事だけでなく、家族や友人とのコミュニケーションの質を向上させるためにも使えるものです。これから様々な人と関わる機会を持つ学生さんに、是非一読いただきたい本としてお薦めしたいと思います。



図書館の所蔵情報へ

私が薦める読書法

医学部 眼科学講座
カシワギ ケンジ
柏木 賢治 教授

秋の夜長、読書には最適の時節が到来した。さらにコロナ禍で自宅にいる時間が長くなり、TVやスマホだけを見ていて、読書をしないとなんだか罪深ささえも感じてしまう。

インターネットが情報母体として主流の今日、自身に都合のよい情報の取得に偏重する傾向が強くなっている。物事には必ず多面的側面があり、一面のみの理解では正しい判断が出来ない。このためにも嗜好に囚われない広い知識を持つことが重要であり、これをもたらしてくれるものの1つが良本である。しかし、読書時間は、平均1日30分程度との調べもある。毎年約7万冊の新刊が発行され、新刊以外に古典や名作も山ほど存在する。これではいくら時間があっても、人工知能が内蔵されているわけでもない人間が読めるわけがない。

ではどうやって選べばよいのだろうか？ 尊敬する人の推薦する図書を読んでみるのもよいが、まずは、名の通った文学賞の受賞作から読んでみることを薦める。最近多くなった読書コンシェルジュを活用するのもよいと思う。読書自体があまり好きでない方は、聴く読書(オーディオブック)を活用するといった方法もある。要は、良書に浸ることが重要である。これによって、自身の知的好奇心が刺激され、広く、より深い知識を得る面白さが実感できるのではないだろうか。読書とは本来楽しいものであるが、実際には読書をする余裕もないという方々が多い。方法は様々あるので、まずは本に触れることから始めてみることをお薦めする。